

科目名	刑事政策	
担当者	藤吉 和史 / FUJIYOSHI, Kazushi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	人はなぜ犯罪や非行をおこなうのか、犯罪や非行をおこなった人はどのように扱われるのか。犯罪原因論や犯罪現象、刑事施設、少年犯罪、行刑や処遇などについて学び、安全な社会の構築を考える。
	到達目標	犯罪原因論や犯罪現象、刑事施設、少年犯罪、行刑や処遇などの刑事政策の基本的な知識を身につけ、犯罪や非行およびその処遇と対策について理解できるようになる。
授業計画	(1) 刑事政策・犯罪学の意義 (2) 犯罪原因論の系譜 (3) 応報刑と教育刑 (4) 16世紀から19世紀の刑事政策 (5) イタリア学派 (6) リヨン学派 (7) 刑事社会学派 (8) 現代の犯罪学 (9) ラベリング論 (10) 非行漂流理論 (11) 刑罰制度論 (12) 死刑存廃論 (13) 少年の非行とその処遇 (14) 犯罪被害者の問題 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	プリントを前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	プリントを復習すること。
使用教材・参考文献	【教】 とくに指定しない。講義中配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 ポケット六法（有斐閣）、ディリー六法（三省堂）、岩波基本六法（岩波書店）、有斐閣判例六法などのうち、1冊。	
成績評価方法と基準	定期試験において、刑事政策の基礎知識を60%以上理解したと認められる者を合格とする。定期試験は出席が学則どおり（3分の2以上）あった者のみが受験できる。	
備考	事件や犯罪に関する新聞記事をよく読み、テレビのニュースを意識的に見て、刑事政策の理論と併せて考える。	